

令和8年度シラバス（公民）

学番22 県立阿賀黎明高等学校

教科（科目）	公民（公共）	単位数	2単位	学年（コース）	1学年
使用教科書	改訂版『高等学校 公共 これからの社会について考える』（数研出版）				
副教材等	改訂版 教科書準拠版 高等学校公共これからの社会について考える 整理ノート（数研出版）／テーマ別資料 公共2026（東京法令出版社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自分と社会の関係性を見つめ、他と協働しながら取り組む力を育成します。</p> <p>②複雑化する社会や地域に関心を持ち、様々な考えを受け入れる力を育成します。</p> <p>③好奇心をもって自ら学び続け本質を見極めようとする姿勢と力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①あらゆる進路に対応できるカリキュラムを設定します。</p> <p>②少人数制により個々にあったきめ細かな指導を行います。</p> <p>③地域と連携し、地域資源を活用した教育活動を行います。</p> <p>④生徒が興味をもった題材を地域の大人が伴走しながら探究するプロジェクト学習に取り組みます。</p>

2 目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 指導計画

月	単元	教材または項目	学習活動（指導内容）	評価方法	時間
4	私公共の頭 た共頭 ちの特 集 空 間 をつ く る	1 大人ってどんな人？	・青年期の意義を理解し、自己形成の課題について考察する。 ・自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか、主体的に追究する。	定期考査 学習ノートの記述確認 確認プリントの評価 ワークシート・レポート 授業中の発言・発表 授業への取組	2
		2 お互いを理解し尊重するために	・伝統や文化、宗教などを背景に現代の社会が成り立っていることを理解する。 ・古代から近代の日本の思想家の思想内容を理解する。 ・対話を通して、先哲の思想や伝統、文化、宗教が自身の生き方に与える影響に気付く。		2
		3 誰もが生きやすい社会へ	・自分たちが生きる社会が、多様な人々から成り立っていることを理解する。 ・自分と異なる主張を聴いたり、他者の思いを受け入れたりすることができるようになる。 ・自主的に公共的な空間を作り出そうとする、主体的な行動ができるようになる。		2
5	方け第 生1 生人 方章 方公 共 し 的 て 空 間 あ り お	第1節 西洋近現代の思想	・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容を理解する。 ・先哲の思想や生き方から、自分自身の生き方を検証し、自己の生き方を考察する。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につける。	定期考査 学習ノートの記述確認 確認プリントの評価 ワークシート・レポート 授業中の発言・発表 授業への取組 グループワーク	4
		定期考査			1
6	お第 け2 章 基 本 公 共 原 理 な 空 間 に お	第2節 現代の諸課題と倫理	・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などを理解する。 ・公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察する。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を、現代の諸課題を主体的・協働的に追究する。		4
		第1節 民主社会の基本原則	・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務などを理解する。 ・基本的原理を考察することで、個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察する。 ・民主政治が自らの生活に関わることを理解し、主体的なあり方生き方を思索する。	定期考査 学習ノートの記述確認 確認プリントの評価 ワークシート・レポート 授業中の発言・発表 授業への取組	4
7～8	作第 3 守 章 の ル レ 私 ル ち を	定期考査			1
		第2節 日本社会の基本原則	・日本国憲法の基本原則や保障されている権利を理解する。 ・日本国憲法の基礎にある考えに着眼し、公共的な空間における基本的原理との関連を考察する。 ・日本国憲法で保障されている権利を理解し、自らの生き方と権利を結びつける。		6
9	作第 3 守 章 の ル レ 私 ル ち を	第1節 法と契約	・法や規範の意義や役割を理解する。 ・日常の買い物や銀行のクレジットカードなど、身近な契約の例を理解する。 ・身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験的に学ぶ。	定期考査 学習ノートの記述確認 確認プリントの評価 ワークシート・レポート 授業中の発言・発表 授業への取組	3
		第2節 司法参加の意義	・公正な裁判には司法権の独立が必要であり国民の参加が大切であることを理解する。 ・裁判員制度の創設の目的を考察し、積極的に司法に参画する自覚を持つ。 ・裁判によって国民のどのような権利が守られているのかを考察する。		3
10	第4 章 政 治 に 参 加 す る 私 た ち	第1節 政治参加と民主政治の課題	・地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察し、民主政治を支える制度を理解する。 ・選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いがでてくることを考察する。 ・模擬投票などを通して、選挙に積極的に参加するなど、主権者としての自覚を持つ。	定期考査 学習ノートの記述確認 確認プリントの評価 ワークシート・レポート 授業中の発言・発表 授業への取組 グループワーク	4
		定期考査			1
11	第4 章 政 治 に 参 加 す る 私 た ち	第2節 国際政治の動向	・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割を理解し、紛争の解決への筋道を考察する。 ・国際連盟・国際連合の組織と役割を理解し、国連の現状と課題について考察する。 ・冷戦とその終結後の国際政治の流れを理解する。		6
		第3節 国際政治の課題と日本の役割	・国際社会の中で日本の役割を理解し、国際問題について自分の意見を持ち説明する。 ・民族紛争、難民問題、人権問題について理解し、国際政治問題について日常から関心を持つ。 ・国際政治の諸課題について、その解決方法を主体的・協働的に探究する。		6
		定期考査			1

12	経済活動を行う私たち	第1節 経済のしくみと産業の変化	<ul style="list-style-type: none"> 現代の企業や農業の果たしている役割と現状を理解する。 産業構造の変化と職業選択との関係や、雇用・労働問題について理解する。 AIやITなどの先端技術が発展する中で、自分の進路や職業選択を適切に考える。 	定期考査 学習ノートの記述確認 確認プリントの評価 ワークシート・レポート 授業中の発言・発表 授業への取組 グループワークの取組	5
		第2節 市場経済のしくみと金融	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済のメカニズムや各種経済指標を理解し、指標の動向を読み解く。 金融のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示する。 需給曲線を使い、どのような場合に価格が変動するか考察する。 		4
		第3節 財政と社会保障	<ul style="list-style-type: none"> 政府が経済に果たしている役割を理解する。 社会保障について理解し、自身の老後生活を予想し、租税と社会保障とのバランスを考察する。 日本の経済について課題を発見し、解決する見通しを持つ。 		3
		第4節 国際経済の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> 貿易や外国為替相場について、そのしくみを理解する。 戦後の国際経済の流れや、経済のグローバル化と相互依存の深まりを理解する。 発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの原因や課題を理解する。 		3
2		定期考査			1
		課題探究の観点	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな課題の中で、自己との関わり注目して主体的に課題を選択し、探究する。 それぞれが選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つ。 	グループワークの取組 発表のようす	4
3	課題探究の手引き	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などで表現する。 現代社会の特質から生じる価値の対立について、さまざまな方法を活用して主体的に探究する。 			

「1単位時間は50分」

70

4 評価の観点及びその趣旨と評価方法

観点	(1) 知識・技能 (40%)	(2) 思考・判断・表現 (30%)	(3) 主体的に学習に取り組む態度 (30%)
趣旨	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の評価 確認プリントの評価 ワークシート、レポートの評価 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の評価 確認プリントの評価 授業中の発言、発表 	<ul style="list-style-type: none"> 学習ノートの達成度 授業への取組 授業中の発言、発表 グループワークの参加状況 ワークシート、レポートへの取組状況

5 担当者からの一言

公共的な空間に生きる私たちを取り巻く諸問題について考察し、生きるとは何か、社会とは何かを探究していきます。定期考査や課題提出だけでなく、授業への取組状況も評価します。